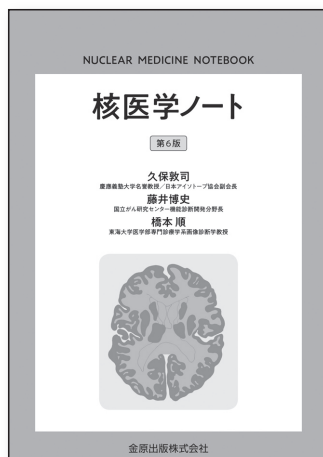


核医学ノート 第6版

著者：久保 敦司，藤井 博史，橋本 順



発行：金原出版株式会社
定価：5,280円(4,800円+税)
A5判，384ページ
図数：50枚，カラー図数：200枚
2019年11月30日発行
ISBN：978-4-3070-7113-0

次々と新しい技術が登場し10年もすると様変わりする放射線分野において，私がレジデント時代から30年近く使い続けている書籍はこの『核医学ノート』のみである。それがほぼ10年ぶりに改版されると聞き大変気にかけていた。第6版は，定番の黄色や緑の表紙から青と白の組み合わせになり，少し雰囲気異なるように思えたが，依然として大きさはA5で厚みも384ページでほとんど変化がなく(第5版は364ページ)，手の中にしっくりくる。なんと表紙の脳血流シンチグラフィのシェーマは初版から同じものが使われており，道理で違和感がないと納得した。

内容もシンプルに基礎と臨床で構成され，前版を踏襲している。しかしビジュアル的には大幅にカラー化されており，200枚ものカラー画像を掲載している。近年の核医学画像のカラー化やカラーが多用されるfusion画像に対応しており，実臨床に即している。さらには，最近ますます発展しつつある各種RI内用療法についても最終章で触れている。第6版は基本的に違和感なく刷新されており，安心して使える。

実は僕は本書のネーミングが気に入っている。「ノート」とは一般的に専門書や参考書ではなく，学習者のための忘備録だったり，反復して見返す記録である。初版の著者はそのような使われ方を意識されてこの名前を付けたのではないと思う。第6版は新しい内容を盛り込むとともに，ページ数を無駄に増やさないよう簡略化できるところは大胆にされ，平均的な放射線科医にとって必要にして十分といえる事項が，簡潔にわかりやすく記載されているのだ。このため核医学の秀逸な成書でもあるが，私のような核医学非専門家の「ノート」としてもきちんと機能する。

本来核医学素人の私が書評を書くのは本当にはばかられるが，平成時代30年間すなわち一世代越えてこれだけ長い間，門外漢にも愛されている『核医学ノート』は，あまたの放射線科関連書籍のなかでも希有な存在だと思う。令和時代にも長く役立ってくれそうだ。

聖路加国際病院 放射線科部長 栗原泰之